

まる まる
上伊那

令和3年2月7日

“つながり”の分野を増やしなが
ら、立場の異なる方々との“つ
ながり”力を身につける



行政の立場の方から「かみとくれんって何？」と聞かれることがあります。思いつく言葉を並べて伝えると、うなずいてはいただけるものの、表情はスッキリしていません。たぶん、思うようには伝わっていないのでしょう。自分がよかれと感ずることを、相手にもよかれと感ずていただく難しさを感ずます。

子どもへのかかわりで、似たような感ずになったエピソードがあります。自己中心的にふるまう子どもに、「思いやりを持ちなさい」と伝えた時のこと。「ぼくは、思いやってもらったことがないのに、なぜ、思いやらなければいけないのか？」と問い返されます。この時「『思いやりを持ちなさい』という思いやりのない」伝え方をしていることに、改めて気づかされます。私から見てよかれと伝えたことが、子どもにもよかれ、と伝わる…とは限らない。

似たようなことは、支援者同士でも経験しています。特に、立場の異なる方々と共に支援する時。よかれと伝えたことが、よかれとは伝わらない…そんなことが、まますあります。“つながり”力の未熟さを反省する毎日です。みなさんはいかがでしょう。

このようなことを思い浮かべながら、これからの「かみとくれん」の在り方をイメージすると、次のことが一つの視点になると考えています。

【“つながり”の分野を増やしなが
ら、立場の異なる方々との“つ
ながり”力を身につける】

私たちの取組には、様々な分野の方のお力添えが欠かせません。例えば、行政もその一つ。この方々との“つながり”力が身につくと、支援の可能性は、グッと広がります。まずは、行政の方々に「かみとくれん」の役職の一端を担っていただき、共に考えていただけるような仕組みを作っていけたら…そう考えます。

それぞれの立場で、わずか1%でも“つながり”力が高まれば、上伊那全体ではより大きな“つながり”になるでしょう。そんな取組の支えとなるような「かみとくれん」を共に作りましょう。

かみとくれん会長 齋藤 良直（伊那養護学校）